

愛知大学学長 殿

愛知大学動物実験委員会
委員長 吉岡 昌子

2025 年度動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書

愛知大学動物実験倫理基準の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 動物実験に関する自己点検・評価報告書

別紙のとおり

2. 全般内容に関する項目

① 動物実験従事者数

動物実験責任者数 1 人（実数）

動物実験実施者数 1 人（実数）

② 動物実験計画書の審査のまとめ

新規	許可件数	0 件	変更	許可件数	0 件
----	------	-----	----	------	-----

	不許可件数	0 件		不許可件数	0 件
--	-------	-----	--	-------	-----

	取下げ件数	0 件		取下げ件数	0 件
--	-------	-----	--	-------	-----

③ 動物実験に関する現況調査票

別記 1 のとおり

④ 動物種ごとの飼養数

別記 1 及び別記 2 のとおり

3. 個別内容に関する項目

① 動物実験の実施状況（別記 3 のとおり）

② 飼養保管施設の管理状況（別記 4 のとおり）

③ 実験室の管理状況（別記 5 のとおり）

以上

別紙

2025 年度
動物実験に関する自己点検・評価報告書

愛知大学

2026 年 8 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 ☐ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 本基準は、「動物の愛護及び管理に関する法律」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」、文部科学省策定の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」及び日本学術会議作成の「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」に基づき定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 ☐ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管基準並びに基本指針等に基づいた愛知大学動物実験倫理基準に適合した動物実験委員会が置かれている。委員会構成員として、動物実験等に関して優れた識見及び経験を有する者を外部委員として加えている。
4) 改善の方針、達成予定時期

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 ☐ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験の実施体制が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験の実施に必要な規程が適切に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。 ☒ 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 別記1 2025年度動物実験に関する現況調査票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 遺伝子組換え動物、特定動物または特定外来生物を飼養・保管及び利用する動物実験等及び病原微生物または遺伝子組換え微生物を接種する動物実験等を行われていない。
4) 改善の方針、達成予定時期

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管施設等の設置と廃止に関する要件が規程等に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期

6. その他

--

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 2025 年度第 1 回動物実験委員会議事録
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 愛知大学動物実験倫理基準等に基づいて委員会を開催し、関連事項について審議した。
4) 改善の方針、達成予定時期

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 別記1 2025年度動物実験に関する現況調査票 別記3 2025年度自己点検報告書（動物実験実施状況） 別記5 2025年度自己点検報告書（動物実験室管理状況）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験倫理基準に基づき、動物実験計画書を審査し、学長の承認を得たうえで動物実験を実施している。また、動物実験室は適切に維持管理されている。
4) 改善の方針、達成予定時期

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☒ 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 別記1 2025年度動物実験に関する現況調査票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理を要する動物は飼養されていない。
4) 改善の方針、達成予定時期

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準等に適合し、適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 別記2 実験動物飼養保管等報告書 別記4 自己点検報告書（実験動物飼養保管施設管理状況）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 実験動物は適正に飼養保管されている。
4) 改善の方針、達成予定時期

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準等に適合し、適正に維持管理されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 別記4 2025年度 自己点検報告書（実験動物飼養保管施設管理状況） 別記5 2025年度 自己点検報告書（動物実験室管理状況）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管施設は適切に維持管理されている。
4) 改善の方針、達成予定時期

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 ☒ 愛知大学動物実験倫理基準等に適合し、適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
--

2) 自己点検の対象とした資料 2026 年度第 2 回動物実験委員会議事録
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 教育訓練の実施記録等によって、基本指針に則した教育訓練を実施していることを確認している。
4) 改善の方針、達成予定時期

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果 ☒ 愛知大学動物実験倫理基準等に適合し、適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 愛知大学研究支援のご案内HP (https://www.aichi-u.ac.jp/kenkyu/rinri)
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 愛知大学研究支援のご案内HPに、自己点検・評価報告書及び愛知大学動物実験倫理基準を公開している。
4) 改善の方針、達成予定時期

8. その他

--

以上

2025年度 動物実験に関する現況調査票

愛知大学動物実験委員会

I. 動物実験に関する組織

委員長	職名	教授	氏名	吉岡昌子	
事務担当者	職名	豊橋研究支援課	氏名	古田玲子	
同連絡先	TEL	0532-47-4579	FAX	0532-47-4129	e-mail tshien@ml.aichi-u.ac.jp
委員	職名	教授	氏名	井藤寛志	
委員	職名	名誉教授(外部委員)	氏名	樋口義治	

委員の数に応じて、表の行を増やしてください。

II. (部局名)における動物実験の概要

1. 動物実験を行う主たる研究分野

■ 生物心理分野

2. 使用した実験動物の種類と概数

動物種	概数
セキセイインコ	4
オカメインコ	3

動物種の数に応じて、表の行を増やしてください。

3. 承認された動物実験計画数

動物実験計画数	1	件
---------	---	---

4. 動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数	1	人
----------	---	---

5. 実験動物飼養保管施設の現況

飼養保管施設の名称	管理責任者の職・氏名(関連資格・経験年数)				動物種	最大飼養頭数 (概数)
	職	氏名	関連資格	経験年数		
比較心理実験棟	教授	関 義正	理学博士	24年	セキセイインコ オカメインコ	7

飼養保管施設の数に応じて、表の行を増やしてください。

6. 動物実験による代表的な研究・教育成果の概要(最近5年間で5件以内:それぞれ、200字以内)

研究課題	動物種	成果の概要
発声学習能力を持つ鳥類の聴覚刺激に基づく身体運動と視聴覚コミュニケーションの研究	セキセイインコ・オカメインコ	他の個体の行動を液晶画面上で再生するなどし、その行動との同調が見られるかを検討した。
音楽の生物学的起源を探索研究	オカメインコ	音楽のメロディを模倣したトリによるメロディへの自発的同調能力などを報告した。

7. 特記事項(動物実験に関連した、機関の特徴や特殊事情)

なし

別記2（実験動物飼養保管施設及び動物実験室の各管理責任者が作成するもの）

愛知大学動物実験委員会 殿

所属分野等名 文学部 心理学科

管理責任者名 関 義正



実験動物飼養保管等報告書

愛知大学動物実験倫理基準第24条第2項の規定に基づき、2025年度に飼養保管した実験動物（納入後、速やかに実験に使用したものを含む。）の種類と数について次のとおり報告します。

報告年月日	2026年5月28日
-------	------------

[実験動物飼養保管室 動物実験室]
※ 該当しないものを一重線(-)で消すこと

飼養保管施設等の名称等		施設名称 動物飼育室		
		設置場所 比較心理実験棟		
対象年度	2025 年度			
実験動物	動物種名	匹数(A)	匹数(B)	飼養保管等の匹数(A+B)
	セキセイインコ	0	4	4
	オカメインコ	0	3	3

留意事項
匹数(A):「実験に使用し死亡した動物の匹数」と「飼育中に死亡した動物の匹数」の合計
匹数(B): 報告書作成時に保管していた動物の匹数
実験動物飼養保管施設及び動物実験室ごとに作成

別記3（動物実験責任者が作成するもの）

愛知大学動物実験委員会 御中

2025年度 自己点検報告書（動物実験実施状況）

提出日 2026年5月28日

動物実験責任者	(部局名) 文学部 (分野等の名称) 心理学科		
	(氏名) 関 義正 (職名) 教授		
	(連絡先Tel) 内線1431 (e-mail) yseki@vega.aichi-u.ac.jp		
研究課題	発声学習能力を持つ鳥類の視聴覚コミュニケーションの研究 承認番号 6		
動物実験の実施期間	2022年4月1日 ~ 2027年3月31日		
使用動物種	ジュウシマツ	左の動物数	0
	セキセイインコ		4
	オカメインコ		3
1. 総合的实施状況	総合的に見て、適正に実施することができたか。 ☒ 良好 ☐ 改善すべき点があった		
2. 動物の選択	使用動物種は適正であったか。また、動物を適正に用いたか。 ☒ 良好 ☐ 改善すべき点があった		
3. 動物数の削減	使用動物数(実験使用数及び繁殖数)の削減に努めたか。 ☒ 良好 ☐ 改善すべき点があった		
4. 動物の選択苦痛軽減及び安楽死	動物の苦痛軽減、排除及び安楽死を適正に行ったか。 ☒ 良好 ☐ 改善すべき点があった		
	2024年度は安楽死は行っていない。		
5. 施設等の利用	飼養保管施設及び実験室を適正に使用したか。 ☒ 良好 ☐ 改善すべき点があった		
6. 事故の発生	愛知大学動物実験倫理基準第6章に基づく、事故の措置等の有無。 ☒ なし ☐ あり		
	・発生日時: 被災者名:		
	・発生日時: 被災者名:		
	・発生日時: 被災者名:		
7. 特記事項	なし		
※ 動物実験委員会の意見	記入日 : ☐ 特に問題なし ☐ 下記の点につき注意を要する		

愛知大学動物実験委員会 御中

2025年度 自己点検報告書（実験動物飼養保管施設管理状況）

提出日 2026年5月28日

管理責任者	(部局名)	文学部	(分野等の名称)	心理学科
	(氏名)	関 義正	(職名)	教授
	(連絡先Tel)	内線1431	(e-mail)	yseki@vega.aichi-u.ac.jp
整理番号				
飼養保管施設名称	動物飼育室			
施設設置場所	比較心理実験棟			
1. 総合的管理状況	総合的に見て、適正に管理することができたか。			■ 良好 □ 改善すべき点があった
2. 動物実験及び飼養保管の状況	動物を適正に飼養・保管し、動物実験に用いさせたか。			■ 良好 □ 改善すべき点があった
3. 安全確保	人の安全に配慮した適正な環境が整備されていたか。			■ 良好 □ 改善すべき点があった
4. 環境保全	適正な環境を維持することができたか。			■ 良好 □ 改善すべき点があった
5. 事故の発生	愛知大学動物実験倫理基準第6章に基づく、事故の措置等の有無。 ■ なし □ あり			
	・発生日時：		被災者名：	
	・発生日時：		被災者名：	
	・発生日時：		被災者名：	
6. 特記事項	なし			
※ 動物実験委員会の意見	記入日：			□ 特に問題なし □ 下記の点につき注意を要する

愛知大学動物実験委員会 御中

2025年度 自己点検報告書(動物実験室管理状況)

提出日 2026年5月28日

管理責任者	(部局名)	文学部	(分野等の名称)	心理学科
	(氏名)	関 義正	(職名)	教授
	(連絡先Tel)	内線1431	(e-mail)	yseki@vega.aichi-u.ac.jp
整理番号				
実験室名称	動物実験室			
実験室設置場所	比較心理実験棟			
1. 総合的管理状況	総合的に見て、適正に管理することができたか。			■ 良好 □ 改善すべき点があった
2. 動物実験及び飼養保管の状況	動物を適正に飼養・保管し、動物実験に用いさせたか。			■ 良好 □ 改善すべき点があった
3. 安全確保	人の安全に配慮した適正な環境が整備されていたか。			■ 良好 □ 改善すべき点があった
4. 環境保全	適正な環境を維持することができたか。			■ 良好 □ 改善すべき点があった
5. 事故の発生	愛知大学動物実験倫理基準第6章に基づく、事故の措置等の有無。 ■ なし □ あり			
	・発生日時:		被災者名:	
	・発生日時:		被災者名:	
	・発生日時:		被災者名:	
6. 特記事項	なし			
※ 動物実験委員会の意見	記入日 :			□ 特に問題なし □ 下記の点につき注意を要する